

校報



水 緒

「知徳の方向 あやまらず 進め」

第 1 4 1 5 号
(令和4年度 第16号)
洋野町立種市小学校
令和4年9月9日
児童数 232名

校報のナンバーの間違いを修正いたしました。先週の授業参観は分散開催にもかかわらず多数ご来校をありがとうございました。16日の懇談会もよろしくお願いたします。

かがやきタイムで練習した 「音読」を聞いてください！

9月6日(火)の児童朝会。児童会執行部からの今月の生活目標についてのお話があり、その後で各委員会からの連絡がありました。そして続いて「みなさんから」に進むと、3年生が手を挙げました。3年生はその場に立って、「夕日が背中をおしてくる」などの学習した詩の音読を披露してくれました。

種市小学校では、昼の掃除後・5時間目の15分間を「かがやきタイム」と呼んで、水曜日は計算などのドリル(復習)に取り組むものの、月・火曜日は音読・視写を継続して取り組んでいます(木曜日は下校時刻を早めるために「かがやきタイム」はお休みにしていますし、金曜日はその後何日間かの家庭学習の計画づくりを行っています)。詩を音読したり写して書いたり、古典を読んだり、授業とは一味違う「学びの豊かさ」を求めた取り組みです。

「かがやきタイム」の時間にたまたま3年生にお邪魔すると、はりきった声で音読していました。ほとんど暗記している子もいます。合わせるつもりでなくても自然と声がそろっていきます。「**声がそろくと気持ちいいんです!**」とも言います。この気持ちよさも学びの**豊かさ**と言えるでしょう。さらに聞くと「**実は、いつか全校朝会か児童朝会で発表しようと思っっているのです。**」とのこと。いつかいつかと楽しみにしていました。それが、9月6日だったようです。

発表が終わって再度教室にお邪魔してみました。「やったよ!」という顔、一方で「緊張したー!」という声。「もっと上手にできたはず」という気持ちからでしょうか。それでも、「**校長先生が種小に来て3年になるけれど、自分達から発表したいと手を挙げたのは、みなさんが初めてですよ。**」と子ども達を称えました。

「みなさんから」

朝会や集会では「みなさんから」はとても大切なものだと考えています。子ども達から、「みんなに伝えたいこと」や「聞いてほしいこと」がたくさん出てきたらいいなあと思ってきました。“児童”朝会ですから子ども達の朝会です。しかも、「みなさん」からですから誰もが手を挙げる権利があります。ふざける意外なら何だって伝えたらいいと思うのです。多少上手でなくてもかまいません。「伝えたい」「発表したい」という気持ちを大事にしたいです。

伝え合うことで、「へー、〇年生はこんなことをがんばっているんだ!」とか「この人はこんな考えを持っているんだ!」とそれまでは気がつかなかった友達の一面が見えたり、他の人のいろいろな考え方がわかったりします。学級には20人30人と友達があります。全校では200人を超えます。いろいろな友達があります。うれしくなります。

「へー!」と思うような発見がたくさんあったとしたら、そして、前よりもその人のことを深く知ってつながりが深まったとしたら、そんな生活を「**豊か**」というのではないのでしょうか。

「みなさんから」が続いてほしいです。



「もう一度走っていいですか!?!」

陸上の練習に取り組んでいます。2学期に入ってすぐに、4・5・6年生が取り組み始め、各種目の練習を行ってきました。そして、今週初めに選手が決まりました。1つの区切りです。陸上が苦手な人、練習はしたいけれど試合に出るのはいやだという人、内心いやいや始めたけれど面白くなって来たという人、できれば記録会に出てみたいと思うようになった人、……。どれも、取り組んだからこそ思いなのだと思います。

選手にならなかった子は、今度は応援にまわります。でも、せっかくここまで走ってきたので、最後まで走らせたいと考えています。種目の練習には入らなくても、走る練習をがんばり続けてみんなで最終日を迎えたいと考えています。ですから、応援にまわる子も、「体力づくり」と称して走る練習を続けています。

体力づくりグループの練習にお邪魔しました。「腕を振って! そう今の走り方でもう1本!」、「目はどこへ向ける? そこから目を離さないよ! そう! その走りを3本やろう!」子ども達の腕振りがよくなり、フォームもよくなりました。

練習が進んでいきます。さすがに疲れます。休憩をはさんで、再度練習。疲れてきました。疲れて辛そうな表情をしながらも必死にがんばっています。これもかっこいいです。「疲れてきた人は休んでいいですよ。そして、大丈夫そうだったらまた復活して! 自分で決めていいです!」子ども達は遠慮していますので、再度言います。「遠慮しないで。本当



につらかったら休んで。自分で決めていいです。」すると、「休んでいいですか。」「休みます。」と言ってくる子が表れました。しばらくすると、「元気になっ

たので、走っていいですか。」と言いにきます。「どうぞ、どうぞ。」です。休むときも「どうぞ」ですし復活するときも「どうぞ」です。走っている中、休んでいる子がいるため、最後の子が一人になってしまいました。「どれ、俺が走るか」というように休んでいた子が隣のスタート位置についてくれました。

いよいよ「最後にしよう。」と1本走り終えました。するとまた、「もう1本走っていいですか。」と言ってきます。子ども達は、やらされているのではなく、自分のために走っているのです。

こんなにがんばっています。選手ではない子達の話です。立派だと思います!



続けているうちに、走る姿がかっこよくなってきます。確かにタイムは選手に比べれば速くないかもしれませんが、りっぱだと思います。きっと家に帰れば、弟や妹には、「こうして走るといいよ。」と教えてあげられるのではないかと想像します。「記録を伸ばす」、「走り方を覚える」、「やり続けて心を強くする」、……。陸上の取り組みにもいろいろな目標があって子どももそれぞれが「参加」し、そして「成果」があるのだと思っています。

1～3年生は縄跳び

低学年は体育の時間や休み時間などに「縄跳び」で体力づくりに取り組んでいます。来月にはマラソンも予定されていますから、うまくつながっていくことと思っています。

